

2012年3月1日
在アンゴラ日本国大使館

アンゴラ情勢報告（2012年1～2月）

【1月の政治動向】

<内政>

- ・ **液化天然ガス（LNG）生産**：ソナンゴルによると今年の第1四半期終わりには、ソヨでLNGの生産が開始される予定。生産量は年間520トンの見込み。同アンゴラLNGプロジェクトは、BP Exploration, Chevron, ExxonMobil, Sonangol, Totalによる共同案件。（当館注：その後、生産開始は5月以降に延期される旨の報道あり。）
- ・ **移民局 2011年入管報告書**：移民局（SME）が昨年の入管に関する報告書を発表。クネネ州では、451人の不法滞在外国人を逮捕。また、報告書によると11人のアンゴラ人が不法入国幫助により逮捕された。逮捕者の国籍は、ナミビア、ギニア、ソマリア、コンゴ民、ナイジェリア、南アフリカ、モザンビーク、中国、ジンバブエ、マラウイ、エチオピア、ブラジル、スペイン、セネガル。2011年国外追放者は99人、120人が帰還難民センターへ送られた。
- ・ **閣僚人事**：マヌエル・ドミンゴス・ヴィセンテを経済調整大臣に任命。（ソナンゴル新総裁には、フランシスコ・デ・レモス・ジョゼ・マリアが就任。）その他、ジョアキン・ヴェントウーラが電力担当長官に、ジョブ・カパピーニャが青年スポーツ副大臣に任命された。また、アウグスト・アルシェール・デ・ソウザ・マンゲイラが商務副大臣を罷免され、資本市場委員会の責任者に任命された。

<外交>

- ・ **ギニア・ビサウ暴動**：昨年12月、ギニア・ビサウにおいて、給料の返還を求め軍の一部が反乱を起こした事件に関し、ドス・サントス大統領は、CPLP議長国として、ギニア・ビサウ大統領に宛てた書簡の中で、同事件の発生を非難した。
- ・ **韓国・アンゴラ協力関係**：8日、ダヴィッド地質鉱山・工業大臣は、ヴィアナ市に、韓国との協力のもと、初の先進技術産業センターを建設することを発表。
- ・ **加藤外務大臣政務官のアンゴラ訪問**：8～9日、加藤外務大臣政務官は、投資協定の早期署名や協力関係強化を要請すべくアンゴラを訪問、ディアス・ドス・サントス副大統領他と会談を行った。
- ・ **大統領の南ア訪問**：ドス・サントス大統領が南ア、アンゴラ、モザンビーク3国間会談を行

うべく南アを訪問。

- ・ **中部アフリカ諸国経済共同体首脳会合**：中部アフリカ諸国経済共同体首脳会合（英略：ECCAS，本部：ガボン，現在11カ国が加盟，域内の紛争の予防・解決の組織として中央アフリカ平和安全保障委員会が設置されている）の第15回首脳会合がチャドで開催された。地域統合が主要なテーマ。
- ・ **葡アンゴラ関係**：ロウレンソ企画大臣は，国勢調査の準備のため，国立統計院の技術者チームを葡に派遣する旨発表。また，マスコミュニケーション大臣は，ポルトガルでの地デジ第2フェーズの開始を視察予定。
- ・ **IMF関係**：報道機関の一部が，2007年から2010年のアンゴラ政府の支出に320億ドルに上る使途不明金があると報じたことについて，政府は，使途不明金の存在を否定した上で，アンゴラに対するネガティブキャンペーンであると同報道を非難した。また，ゴルジェル経済大臣は，葡アンゴラ商工会議所会合の席において，追加的なIMF融資を受けない考えを示した。
- ・ **AU委員長選挙**：現職であるジャン・ピンとSADCが支持するズマが立候補するAU委員長選挙は，第4次選挙においても決着がつかず，6月の次期AU首脳会合に持ち越されることとなった。シコティ外務大臣は，次期委員長は，アフリカ全体のコンセンサスを得られ，アフリカを取りまとめるのに十分なリーダーシップを有する人物である必要があるとの考えを述べた。
- ・ **ポルトガル語公用語アフリカ諸国外務大臣会合**：ポルトガル語公用語アフリカ諸国（PALOP）の外務大臣会合が開催され，ポルトガル語新正書法，及び，赤道ギニアのCPLP加盟に関し議論がなされた。シコティ外務大臣は，赤道ギニアの加盟を促進する目的で，ポルトガルとの対話を行う小委員会が設置されたことを明らかにした。

【2月の政治動向】

<内政>

- ・ **クワンザの国外への持ち出し許可**：アンゴラ中央銀行（BNA）は，27日以降，5万クワンザまでの国内外への持ち出し，持ち込みを許可するとした。外貨の国外持ち出しに関し，アンゴラに居住するアンゴラ人及び外国人に対しては，5千ドル（18歳未満），1万5千ドル（18歳以上）相当に上限を設定。海外に居住するアンゴラ人及びアンゴラに居住しない外国人については，1万ドル相当までの外貨が持ち出し可能。国内への外貨持ち込みに係る申告義務については，これまで同様，前者が1万5千ドル以上，後者は1万ドル以上を持ち込む場合につき要申請。

- ・ **閣僚人事**：9日、マヌエル・ドミンゴス・ヴィセンテが経済調整大臣に、ジョアキン・ヴェントウーラが電力担当長官に、ジョブ・カパピーニャが青年スポーツ副大臣に就任。
- ・ **プレソルト鉱区の地震探査**：プレソルトの鉱区（19, 20, 22, 24, 25, 35, 40 鉱区）における炭化水素の存在を調査するため、地震探査を実施する旨発表。
- ・ **開発戦略**：ロウレンソ企画大臣は、2025年までの25カ年計画での開発戦略「Angola - um país do futuro（アンゴラ2025 - 未来の国）」を発表。同戦略は、経済、文化、社会、政治分野での開発、行政府の改革を目指している。また、貧困撲滅や国民の生活向上を目的の一つに挙げている。

<外交>

- ・ **韓国アンゴラ関係**：在韓国アンゴラ大使が、韓国外務省中東アフリカ局を訪問。二国間協力と来月ソウルで開催予定の核の安全に関する首脳会合に関し意見交換。
- ・ **EU関係**：EU代表がディアス・ドス・サントス副大統領と会談。EUは、アンゴラのギニア・ビサウでの紛争解決やSADC、CPLP議長国としての役割を評価しつつ、経済発展や共通関心事項に関連する分野での対話を促進していく考えを示した。
- ・ **CPLP関係**：6日、ディアス・ドス・サントス副大統領は、リスボンにおいて、CPLP新本部の落成式に出席。また、「CPLP - 歴史的な好機」と題して行われた会議の閉会式において、アンゴラはギニア・ビサウの政治情勢正常化に貢献したい考えを示した。
- ・ **丸紅 砂糖・エタノールプラント建設**：6日、丸紅と地質鉱山・工業省は、クネネ州ウンベの砂糖・エタノールプラント建設契約に調印。同建設は、約6億5200万ドル規模。年間40万トンの砂糖と4万KLのエタノールの生産能力を有する。
- ・ **Mining Indaba 2012**：ダヴィッド地質鉱山・工業大臣は、ケープタウンにおいて開催された“Mining Indaba 2012”に出席。松下経産副大臣との会談において、優れた人材と高い技術力を有する日本と鉱物資源分野で協力していきたいとし、日本とアンゴラの持続的な関係を希望する旨述べた。
- ・ **副大統領ベトナム訪問**：12～15日、ディアス・ドス・サントス副大統領は、ベトナムを訪問。サン・ベトナム国家主席及びズン首相との会談の他、ベトナム・アンゴラ企業フォーラムに参加した。同フォーラムの合間を利用し、50万世帯の建設に関する協力協定が調印された。また、両国教育大臣は、高等教育及び文化分野での技術協力に関する議定書に調印した。
- ・ **露アンゴラ協力関係**：露とアンゴラは、高等教育分野における協力協定に調印。これにより、両国教育機関による科学調査の共同実施や両国間での学位認定、授与における協力も目指す。

また、経済、科学技術、貿易協力に関する政府間委員会において議定書に調印。同委員会において、露は、Laukaにおける水力発電所建設やその他の電力事業参加への興味を示した。

- ・ **独アンゴラ関係**：マヌエル・アウグスト外務省政治担当長官は独を訪問し、独外務政務官と会談。両国間協力委員会を発足し、互恵的な協力分野を検討。
- ・ **A U首脳会合**：マンゲイラ外務省官房担当長官は、A U首脳会合に出席。
- ・ **南ア・アンゴラ首脳会談**：ズマ南ア大統領は、A U首脳会合に参加後、アンゴラを訪問。ドス・サントス大統領とS A D C及びA U地域に関する意見交換を行った。
- ・ **葡への送金額増加**：アンゴラは、ポルトガルからの移住者の送金元として、3番目に送金額の多い国である。ポルトガル銀行によると、2011年のポルトガル移住者によるアンゴラからの送金額は1億4700万ユーロで、フランス（8億6800万ユーロ）、スイス（6億8100万ユーロ）に次いで第3番目に送金額の多い国となった。
- ・ **シコティ外務大臣の英国訪問**：シコティ外務大臣は英国を訪問し、英国外務大臣他と会談。その後、教育関係者、NGOや大学生を前に、アンゴラ外交、国際機関におけるアンゴラの役割、総選挙の準備状況、ソナンゴルの国際化等に関し、演説を行った。また、英国アンゴラ経済フォーラムに出席し、海外投資をアンゴラに引き込む政策や新民間投資法のインセンティブについて述べた。
- ・ **潘基文国連事務総長のアンゴラ訪問**：26～27日、潘基文国連事務総長がアンゴラを訪問し、ドス・サントス大統領、カソーマ国会議長、シコティ外務大臣等と会談。今回の訪問では、とりわけ、保健医療、教育、貧困削減、感染症撲滅といった分野におけるミレニアム開発目標（MDGs）達成状況の確認、また、ポリオ撲滅においてアンゴラ政府の取り組みを奨励し、さらに、現在S A D C及びC P L P議長国を務めるアンゴラと地域的、及び、アフリカ全土が抱える問題について意見交換を行った。ジョルナル・デ・アンゴラ紙のインタビューでは、国連改革に関し国連加盟国間での交渉促進を望む旨述べ、また、MDGs達成に向け、国連としてアンゴラを支援する容易があるとした。

【基本事項】

<一般情報>

- ・ 国名はンドンゴ王国の王号ンゴラに由来。人口 1850 万人¹（2009 年世銀推計）
- ・ 旧ポルトガル植民地であり、1975 年に独立。独立後、1975 年から 2002 年まで長年に亘る内戦を経験し、2002 年に和平を達成。

<政治体制・内政>

- ・ 大統領を元首とする共和制国家。
- ・ 2002 年の内戦終結以降、民主化を進めており、国内政治的には非常に安定。
- ・ 2008 年 9 月に内戦終了後、16 年ぶり 2 度目の国会議員選挙が実施され、与党アンゴラ解放人民運動党（MPLA）が 81.3% の得票で圧勝。
- ・ ジョゼ・エドゥアルド・ドス・サントス大統領は、初代大統領アグスティニョ・ネトの死去を受け、1979 年 9 月 20 日就任。
- ・ 2010 年に新憲法が施行。首相職が廃止され、副大統領を設置。大統領と国会議員の選出を同一の選挙で実施する「議院大統領制」が採用された。大統領の任期は 5 年²、2 回まで再選可能。議会は 1 院制（議席数 220、任期 5 年）。
- ・ 次期総選挙は 2012 年 9、10 月頃の予定。与党 MPLA が引き続き与党となるというのが大方の予想。

（了）

¹ 2013 年に国勢調査の実施を予定。

² 新憲法に規定されている任期は、次回選挙（2012 年を予定）から適用されるため、同選挙にてドス・サントス現大統領が再選した場合、最大で 2022 年まで任期が延長されることとなる。